

T K C 標準読込レイアウト

F X 4クラウドシステム解説書 (巻末資料 第38版) より抜粋

巻 末 資 料

[注] 各データレイアウト上の「NULL」の設定について
「NULL」とは、タブによる区切りのみで、値のない状態を指します。

2. 自動仕訳データレイアウト<レイアウト1：単純仕訳形式>（〔ご参考〕本書190頁）

「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」で「受入レイアウト」を「レイアウト1（単純仕訳形式）」と選択した場合のレイアウトとなります。「伝票（1伝票型）」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は行単位でセットします。

※「NULL」については本書468頁をご参照ください。

【仕訳明細部（標準レイアウトでは、タブ区切りで、拡張子を「*.slp」とします）】

1. 会社コード

TYPE：数値

有効値：0～999

説明：FX4クラウドに登録されている関与先コードをセットします。関与先コードはメニュー「自社情報」で確認します。

例：関与先コードが「005」の場合「5」、関与先コードが「032」の場合「32」。

2. システム番号

TYPE：数値

有効値：101～998、及び1000

説明：連携するシステムの、[業務システム情報]で登録したコードをセットします。

なお、「1000」をセットした場合、期末整理仕訳として読み込まれます。

3. レコード番号

TYPE：数値

有効値：1～999999999

説明：1ファイル内で一意になる番号をセットします。番号は連続している必要はありません。降順、昇順、または順不同であっても問題ありません。

4. 取引年月日

TYPE：数値

説明：仕訳の取引年月日を西暦でセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

5. 伝票番号

TYPE：数値

有効値：0～99999

説明：伝票番号をセットします。伝票番号を省略する場合は0をセットします。ただし、FX4クラウドの伝票番号の設定が「システムで自動付番する」となっている場合は0から99999までの、どの数値がセットされていてもFX4クラウドで更新する際に付番し直します。「システムで自動付番する」となっている場合、通常は0をセットします。「担当者ごとに自動付番する」となっている場合は、セットした伝票番号でそのまま更新されます。

伝票番号の設定は[システム情報]で行います。

6. 証憑書番号

TYPE：文字

桁数：6バイト以内（半角文字）

説明：仕訳の証憑書番号をセットします。省略する場合はNULLをセットします。

7. 課税区分

TYPE：文字

桁数：2バイト以内（半角文字）

説明：TKCで指定する課税区分をセットします。
消費税情報で「申告書を自動作成しない」としている場合は、NULLをセットします。

例：課税区分[1]をセットする場合は「1」。
課税区分[11]をセットする場合は「11」。

8. 事業区分

TYPE：数値

有効値：0～6(ただし、「6」は平成27年4月1日以後開始する課税期間の場合のみ有効)

説明：事業区分をセットします。
課税区分が1, 11以外、または消費税情報で事業区分を入力しない設定にしている場合は、0をセットします。

9. 借方科目コード

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：FX4クラウドに登録されている科目コードをセットします。

10. 借方補助科目コード

TYPE：文字

桁数：3バイト以内(半角文字) ※部門コードを4桁でご利用時に、部門コードをセットする場合は4バイト以内

説明：借方科目が口座別管理、または部門別管理している場合、借方科目の補助コードまたは部門コードをセットします。
上記以外の科目の場合はNULLまたは半角SPACE3桁をセットします。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」。
補助コード「AB」をセットする場合は「AB」。
補助コード「ABC」をセットする場合は「ABC」。
部門コード「001」をセットする場合は「001」。

11. 貸方科目コード

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：FX4クラウドに登録されている科目コードをセットします。

12. 貸方補助科目コード

TYPE：文字

桁数：3バイト以内(半角文字) ※部門コードを4桁でご利用時に、部門コードをセットする場合は4バイト以内

説明：貸方科目が口座別管理、または部門別管理している場合、貸方科目の補助コードまたは部門コードをセットします。
上記以外の科目の場合はNULLまたは半角SPACE3桁をセットします。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」。
補助コード「AB」をセットする場合は「AB」。
補助コード「ABC」をセットする場合は「ABC」。
部門コード「001」をセットする場合は「001」。

13. 小切手番号

TYPE：文字

桁数：8バイト以内(半角文字)

説明：小切手番号をセットします。省略する場合はNULLをセットします。

14. プロジェクトコード

TYPE : 文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : プロジェクトコードをセットします。省略する場合は NULL をセットします。

15. 取引金額

TYPE : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

説明 : 取引金額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

16. 消費税金額

TYPE : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

説明 : 消費税額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は 0 をセットします。

17. 税額入力区分

TYPE : 数値

有効値 : 0、1

説明 : 消費税額をシステムで自動計算した場合は 1 を、自動計算でない場合は 0 をセットします。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は 0 をセットします。

また、1 を選択した場合でも、「消費税額」にセットした金額が、自動計算された金額と一致しない場合は、自動的に 0 として扱われます。

18. 消費税率

TYPE : 数値

有効値 : 0~99999

説明 : 税外取引の場合は 0 をセットします。

例 : 5.0%の場合は 500 をセットします。

19. 取引先コード

TYPE : 数値

有効値 : 0~999999

説明 : 「借方科目コード」「貸方科目コード」にセットした科目が取引先別管理をしているか否かにより、処理内容が異なります。

①いずれかの科目が取引先別管理をしている場合

この場合、当項目のセットは必須です。F X 4クラウドに未登録のコードをセットした場合、F X 4クラウドの取引先マスターに当該取引先コード、取引先名(次項)が自動登録されます。ただし、次項の「取引先名」が NULL またはスペースの場合はエラーとなります。

(注意) 取引先のコード変換表を利用している場合、「業務システムの取引先コードに対応する F X 4クラウドの取引先コード」としてコード変換表に定義された取引先コードが F X 4クラウドの取引先マスターに存在しないと、当該取引先コードは変換されません。この際、1)業務システム側の取引先コードが F X 4のコードの有効値であり、かつ 2)次項の「取引先名」がセットされている場合は、業務システム側の取引先コードが自動登録されます。

②いずれの科目ともに取引先別管理をしていない場合

この場合、当項目へのセットは必須ではありません。

- 1) F X 4クラウドに登録されている取引先コードをセットする。もしくは
- 2) 当項目に 0 をセットし、次項で任意の取引先名をセットします。

なお、F X 4クラウドに未登録のコードをセットした場合、当該コードはそのまま読み込まれますが、F X 4クラウドの取引先マスターへの自動登録はされません。

20. 取引先名

TYPE : 文字

桁数 : 32 バイト以内 (全半角混在可)

説明 : 前項「取引先コード」に、FX 4クラウドに登録されている「取引先コード」がセットされている場合、どんな取引先名がセットされていてもFX 4クラウドに登録されている取引先名に置き換えます。

「取引先コード」に新規取引先コード又は0がセットされた場合は、当項目の値が読み込まれません。

21. 実際の仕入れ日入カパターン

TYPE : 数値

有効値 : 0~4

説明 : 仕入れ年月日のパターンをセットします。仕入れ以外の取引の場合は0をセットします。

[実際の仕入れ年月日のパターン]

0=省略

1=令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日

2=令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日~令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日

3=令和 Z9 年 Z9 月分

4=令和 Z9 年 Z9 月分~令和 Z9 年 Z9 月分

22. 実際の仕入れ開始年月日

TYPE : 数値

説明 : 実際の仕入れ年月日のパターンを1~4とした場合に、仕入れ開始年月日または仕入れ開始年月を西暦でセットします。年月の場合は日には0をセットします。

仕入れ日パターンが0の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

23. 実際の仕入れ終了年月日

TYPE : 数値

説明 : 仕入れ年月日のパターンを2, 4とした場合に、仕入れ終了年月日または仕入れ終了年月を西暦でセットします。年月の場合は日には0をセットします。

仕入れ日パターンが0, 1, 3の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

例 : ①仕入れ日を表示しない、また仕入れ取引以外の場合

実際の仕入れ日パターン=0

実際の仕入れ開始年月日=0

実際の仕入れ終了年月日=0

②仕入れ日を「2年6月10日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=1

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=0

③仕入れ日を「2年6月10日~2年6月25日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=2

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=20200625

④仕入れ日を「2年6月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=3

実際の仕入れ開始年月日=20200600

実際の仕入れ終了年月日=0

⑤仕入れ日を「2年4月～2年6月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=4

実際の仕入れ開始年月日=20200400

実際の仕入れ終了年月日=20200600

24. 元帳摘要

TYPE : 文字

桁数 : 40 バイト以内 (全半角混在可)

説明 : 仕訳の元帳摘要をセットします。省略する場合は NULL をセットします。

なお、40 バイトを超える値をセットした場合、40 バイトを超える分については自動的にカットされた上で読み込まれます。

25. 受注番号

TYPE : 文字

桁数 : 8 バイト以内 (半角文字)

説明 : 受注番号をセットします。省略する場合は NULL をセットします。

26. 資金大分類

TYPE : 数値

有効値 : 0～7

説明 : 資金収支区分をセットします。当項目および「27. 資金小分類」の読込を省略した場合は、資金相手科目の設定に基づき自動的に値がセットされます。なお、資金外取引の場合や資金管理をしない場合は 0 をセットします。

27. 資金小分類

TYPE : 数値

有効値 : 0～24

説明 : 資金収支の内訳区分をセットします。当項目および「26. 資金大分類」の読込を省略した場合は、資金相手科目の設定に基づき自動的に値がセットされます。資金外取引の場合や資金管理をしない場合は 0 をセットします。

28. 部門コード

TYPE : 数値

桁数 : 0～999 (部門コードを 4 桁でご利用の場合は 0～9998) (注)

(注) 999は F X 4 (従来版) からの移行時のみ有効です。

説明 : 当該仕訳に関わる部門明細数が 1 の場合、該当部門コードをセットします。

部門明細数が 1 以外の場合はどんな部門コードがセットされていても無視します。通常は NULL をセットします。

例 : 部門コード「000」をセットする場合は「000」(「00」もしくは「0」でも読込可能です)

部門コード「005」をセットする場合は「005」(「05」もしくは「5」でも読込可能です)

部門コード「021」をセットする場合は「021」(「21」でも読込可能です)

29. 部門明細数

TYPE : 数値

有効値 : 0～999

説明 : 当該仕訳に付随する部門明細数をセットします。

損益科目以外の取引の場合は 0 をセットします。

30. 部門金額入力区分

TYPE：数値

有効値：0もしくは1

説明：消費税が発生する取引の場合で、かつ部門明細に税込み金額を読み込む場合は1をセットします。

消費税が発生する取引の場合で部門明細に税抜き金額を読み込む場合、または消費税が発生しない取引の場合は0をセットします。

なお、消費税科目を部門別管理している場合でかつ消費税が発生する取引の場合は、部門明細は税込み金額をセットする必要があるため、1をセットします。

31. 予定日自動計算区分

TYPE：数値

有効値：0もしくは1

説明：買掛金・未払金の計上仕訳または売掛金・未収入金の計上仕訳の場合に、支払予定日または回収予定日を取引先の約定から自動計算して読み込む場合は1をセットします。0をセットした場合は、項目「33. 支払予定日」または「34. 回収予定日」にセットされた値を読み込みます。

なお、買掛金・未払金の計上仕訳以外または売掛金・未収入金の計上仕訳以外の場合、当項目は無視されます。

32. 自動仕訳番号

TYPE：数値

有効値：0～999999

説明：当該仕訳と原票とを対応させるための番号です。対応付けが不要な場合は0をセットします。

33. 支払予定日

TYPE：数値

説明：支払管理機能を利用している場合、買掛金・未払金の支払予定日をセットします。省略する場合、買掛金・未払金の計上以外の仕訳の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

34. 回収予定日

TYPE：数値

説明：入金管理機能を利用している場合、売掛金・未収入金の回収予定日をセットします。省略する場合、売掛金・未収入金の計上以外の仕訳の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

35. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULLをセットしてください。

36. 借方内訳管理コード1

TYPE：半角文字

桁数：6バイト以内（半角文字）

説明：借方科目が内訳管理コード1を利用している場合セットします。

37. 借方内訳管理コード2

TYPE：半角文字

桁数：6バイト以内（半角文字）

説明：借方科目が内訳管理コード2を利用している場合セットします。

38. 貸方内訳管理コード1

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：貸方科目が内訳管理コード1を利用している場合セットします。

39. 貸方内訳管理コード2

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：貸方科目が内訳管理コード2を利用している場合セットします。

40. 借方内訳管理コード3

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：借方科目が内訳管理コード3を利用している場合セットします。

41. 借方内訳管理コード4

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：借方科目が内訳管理コード4を利用している場合セットします。

42. 貸方内訳管理コード3

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：貸方科目が内訳管理コード3を利用している場合セットします。

43. 貸方内訳管理コード4

TYPE：半角文字

桁 数：6バイト以内（半角文字）

説 明：貸方科目が内訳管理コード4を利用している場合セットします。

44. 書類枚数

TYPE：数値

桁 数：0～999

説 明：経費精算システム等の他システムからTKC証憑ストレージサービスに証憑をアップロードし、それとは別に仕訳データを他システムから受け取る場合において、TKC証憑ストレージサービスにアップロードした当該仕訳に対して紐付け対象となる書類枚数です。

45. 証憑ID

TYPE：半角文字

桁 数：32文字

説 明：経費精算システム等の他システムからTKC証憑ストレージサービスに証憑をアップロードし、それとは別に仕訳データを他システムから受け取る場合において、TKC証憑ストレージサービスにアップロードした当該仕訳に対して紐付け対象となる証憑IDです。

46. 軽減対象取引区分

TYPE：数値

桁 数：0もしくは1

説 明：軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。なお、当区分が存在しない（省略されている）場合は、次の処理を行います。

①取引年月日が2019年10月1日より前の場合

「0」（軽減税率以外）として読み込みます。

②取引年月日が2019年10月1日以後の場合

1)消費税率が税率テーブルの軽減税率に該当する場合

「1」（軽減税率）として読み込みます。

2)消費税率が税率テーブルの軽減税率に該当しない場合

「0」（軽減税率以外）として読み込みます。

※なお、レイアウト上は46番目ですが、仕訳読込テンプレートの設計画面上は、「消費税率」と「取引先コード」の間に当区分が表示されます。

【部門明細部】（標準レイアウトでは、タブ区切りで、拡張子を「*.cls」とします）

1. 会社コード

TYPE：数値

有効値：0～999

説明：FX4クラウドで認識されている会社コードをセットします。

例：会社コードが「005」の場合「5」、会社コードが「032」の場合「32」。

2. データ作成システム区分

TYPE：数値

有効値：101～998

説明：メニュー [業務システムの登録] で登録したコードをセットします。

3. レコード番号

TYPE：数値

有効値：1～999999999

説明：対応する仕訳明細のレコード番号をセットします。

4. 明細部レコード番号

TYPE：数値

有効値：1～999999999

説明：1枚の仕訳に2以上の部門明細が存在する場合に、最初の部門には1、次の部門には2とカウントアップしセットします。

5. 部門コード

TYPE：文字

桁数：3バイト（部門コードを4桁でご利用の場合は4バイト）（半角文字）

説明：部門コードをセットします。

例：部門コード「000」をセットする場合は「000」

部門コード「005」をセットする場合は「005」

部門コード「021」をセットする場合は「021」と、3桁固定でセットします。

6. 部門税込み金額

TYPE：数値

有効値：-999999999999～999999999999

説明：各部門の税込み金額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

「部門金額入力区分」が「1」の場合のみ有効となります。この際、「税込み金額－内訳金額」の値を部門ごとの消費税額として読み込みます。

なお、「部門金額入力区分」が「1」以外の場合は無視されます。

7. 内訳金額

TYPE：数値

有効値：-999999999999～999999999999

説明：各部門の内訳金額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

消費税が発生する取引の場合は税抜きを金額をセットします。

【証憑情報部】

1. 会社コード

TYPE : 数値

有効値 : 0~999

説明 : FX 4クラウドで認識されている会社コードをセットします。

例 : 会社コードが「005」の場合「5」、会社コードが「032」の場合「32」。

2. データ作成システム区分

TYPE : 数値

有効値 : 101~998

説明 : メニュー [業務システムの登録] で登録したコードをセットします。

3. レコード番号

TYPE : 数値

有効値 : 1~999999999

説明 : 仕訳明細と関連付ける番号です。対応する仕訳明細のレコード番号をセットします。

4. 明細部レコード番号

TYPE : 数値

有効値 : 1~999999999

説明 : 1枚の仕訳に2以上の証憑明細が存在する場合に、最初の証憑には1、次の証憑には2とカウントアップしセットします。

5. 証憑ID

TYPE : 半角文字

桁数 : 32桁

説明 : TKC証憑ストレージサービスの証憑の証憑IDをセットします。

3. 自動仕訳データレイアウト<レイアウト2：複合仕訳形式>（〔ご参考〕本書190頁）

「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」で「受入レイアウト」を「レイアウト2（複合仕訳形式）」と選択した場合のレイアウトとなります。「複合仕訳」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は貸借それぞれにセットします。

※「NULL」については本書468頁をご参照ください。

注意事項

1. 諸口勘定を利用した単純仕訳に自動分解した上で読み込みます。このため、「会社情報」タブのメニュー「2 経理情報」で、諸口勘定に次の条件のすべてに合致する科目が登録されている必要があります。資金管理を行っている場合（システム情報の「5. 資金管理」にチェックをしている場合）は、資金諸口、資金外諸口の両方に、資金管理していない場合は、資金諸口、資金外諸口どちらか一方に科目を登録する必要があります。

(1) 資金諸口

- ①貸借対照表科目
- ②消費税が「発生しない」科目（消費税属性がB）
- ③資金定義「する」としている科目
- ④口座別管理「しない」科目
- ⑤取引先別管理「しない」科目
- ⑥部門別管理「しない」科目
- ⑦経営分析属性が「現金」「流動性預金」以外の科目
- ⑧内訳管理「しない」科目

(2) 資金外諸口

- ①貸借対照表科目
- ②消費税が「発生しない」科目（消費税属性がB）
- ③資金定義「しない」としている科目
- ④口座別管理「しない」科目
- ⑤取引先別管理「しない」科目
- ⑥部門別管理「しない」科目
- ⑦内訳管理「しない」科目

2. 単純仕訳に分解する際に使用する諸口科目は次の通りとなります。

(1) 資金管理を行っている場合

貸借科目がすべて資金外科目の場合は、登録されている資金外諸口科目を使用します。

貸借科目に資金科目が存在する場合は、登録されている資金諸口科目を使用します。

(2) 資金管理を行っていない場合

資金外諸口科目が登録されている場合は資金外諸口科目を使用します。登録されていない場合は資金諸口科目を使用します。

ファイルレイアウト

1. 会社コード

TYPE：数値

有効値：0～999

説 明：FX4クラウドに登録されている関与先コードをセットします。関与先コードはメニュー〔自社情報〕で確認します。

例 : 関与先コードが「005」の場合「5」、関与先コードが「032」の場合「32」。

2. システム番号

TYPE : 数値

有効値 : 101~998、及び1000

説明 : 連携するシステムの、[業務システム情報] で登録したコードをセットします。
なお、「1000」をセットした場合、期末整理仕訳として読み込まれます。

3. 取引年月日

TYPE : 数値

説明 : 仕訳の取引年月日を西暦でセットします。なお、1 複合仕訳伝票内の取引年月日はすべて同一としてください。異なる場合はエラーとなります。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

4. 伝票番号

TYPE : 数値

有効値 : 0~99999

説明 : 伝票番号をセットします。なお、複合仕訳伝票の区切りの判定は「取引年月日」と「伝票番号」で行います。1 複合仕訳伝票内には同一の伝票番号をセットしてください。

①ただし、「システム情報」メニューで伝票番号の設定が「システムで自動付番する」となっている場合、実際の読込時には、0 から 99999 までのどの数値がセットされていても F X 4 クラウドで更新する際に付番し直します。

②「システム情報」メニューで伝票番号の設定が「担当者ごとに自動付番する」または「自動付番しない」となっている場合は、セットした伝票番号でそのまま更新されます。ただし、この場合、1 複合仕訳伝票内の伝票番号はすべて同一としてください。異なる場合はエラーとなります。

5. 証憑書番号

TYPE : 文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : 仕訳の証憑書番号をセットします。省略する場合は NULL をセットします。なお、値をセットした場合で、1 複合仕訳伝票内のすべての証憑書番号が同一でない場合は無視されます。

6. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

7. 借方科目コード

TYPE : 数値

有効値 : 1000~9999

説明 : F X 4 クラウドに登録されている科目コードをセットします。なお、NULL の場合、借方情報は省略したものとみなされ、「23. 借方内訳管理コード4」までの借方情報は無視されます。ただし、当項目が NULL の場合で、かつ貸方科目コードも NULL の場合はエラーとなります。

8. 借方補助科目コード

TYPE : 文字

桁数 : 3 バイト以内 (半角文字) ※部門コードを4桁でご利用時に、部門コードをセットする場合は4バイト以内

説明 : 借方科目が口座別管理、または部門別管理している場合、借方科目の補助コードまたは部門コードをセットします。

上記以外の科目の場合は NULL または半角 SPACE3 桁をセットします。なお、借方科目を口座別管理していない場合、当項目にセットされた値は無視されます。

例 : 補助コード「A」をセットする場合は「A」。
補助コード「AB」をセットする場合は「AB」。
補助コード「ABC」をセットする場合は「ABC」。
部門コード「001」をセットする場合は「001」。

9. 借方課税区分

TYPE : 文字

桁数 : 2バイト以内(半角文字)

説明 : TKCで指定する課税区分をセットします。

消費税情報で「申告書を自動作成しない」としている場合は、NULLをセットします。

例 : 課税区分[1]をセットする場合は「1」。

課税区分[11]をセットする場合は「11」。

10. 借方事業区分

TYPE : 数値

有効値 : 0~6(ただし、「6」は平成27年4月1日以後開始する課税期間の場合のみ有効)

説明 : 事業区分をセットします。

課税区分が1, 11以外、または消費税情報で事業区分を入力しない設定にしている場合は、0をセットします。

11. 借方取引金額

TYPE : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

説明 : 取引金額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

12. 借方消費税金額

TYPE : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

説明 : 消費税額をセットします。カンマ編集は行わないでください。

消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットします。

13. 借方税額入力区分

TYPE : 数値

有効値 : 0, 1

説明 : 消費税額をシステムで自動計算した場合は1を、自動計算でない場合は0をセットします。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットします。

また、1を選択した場合でも、「借方消費税金額」にセットした金額が、自動計算された金額と一致しない場合は、自動的に0として扱われます。

14. 借方消費税率

TYPE : 数値

有効値 : 0~99999

説明 : 税外取引の場合は0をセットします。

例 : 5.0%の場合は500をセットします。

15. 借方部門コード

TYPE : 数値

桁数 : 0~999(部門コードを4桁でご利用の場合は0~9998)(注)

(注) 999はFX4(従来版)からの移行時のみ有効です。

説明 : 当該仕訳の借方に付随する部門コードをセットします。なお、貸借対照表科目を口座別かつ部門別管理している場合は、当項目へのセットは不要です。借方口座コードのみセットしてください。

例 : 部門コード「000」をセットする場合は「000」（「00」もしくは「0」でも読込可能です）
部門コード「005」をセットする場合は「005」（「05」もしくは「5」でも読込可能です）
部門コード「021」をセットする場合は「021」（「21」でも読込可能です）

16. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

17. 借方部門金額入力区分

TYPE : 数値

有効値 : 0 もしくは 1

説明 : 借方消費税科目を部門別管理している場合でかつ消費税が発生する取引の場合は 1 をセットします。当該項目が 1 の場合のみ部門明細部の税込み金額が有効になります。
消費税が発生しない取引に関しては 0 をセットします。

18. 借方プロジェクトコード

TYPE : 文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : プロジェクトコードをセットします。省略する場合は NULL をセットします。

19. 借方内訳管理コード 1

TYPE : 半角文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : 借方科目が内訳管理コード 1 を利用している場合セットします。

20. 借方内訳管理コード 2

TYPE : 半角文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : 借方科目が内訳管理コード 2 を利用している場合セットします。

21. 借方内訳管理コード 3

TYPE : 半角文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : 借方科目が内訳管理コード 3 を利用している場合セットします。

22. 借方内訳管理コード 4

TYPE : 半角文字

桁数 : 6 バイト以内 (半角文字)

説明 : 借方科目が内訳管理コード 4 を利用している場合セットします。

23. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

24. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

25. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

26. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

27. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

28. 貸方科目コード

「7. 借方科目コード」と同様です。

29. 貸方補助科目コード

「8. 借方補助科目コード」と同様です。

30. 貸方課税区分
「9. 借方課税区分」と同様です。
31. 貸方事業区分
「10. 借方事業区分」と同様です。
32. 貸方取引金額
「11. 借方取引金額」と同様です。
33. 貸方消費税金額
「12. 借方消費税金額」と同様です。
34. 貸方税額入力区分
「13. 借方税額入力区分」と同様です。
35. 貸方消費税率
「14. 借方消費税率」と同様です。
36. 貸方部門コード
「15. 借方部門コード」と同様です。
37. システム拡張用予備領域
予備領域です。NULL をセットしてください。
38. 貸方部門金額入力区分
「17. 借方部門金額入力区分」と同様です。
39. 貸方プロジェクトコード
「18. 借方プロジェクトコード」と同様です。
40. 貸方内訳管理コード1
「19. 借方内訳管理コード1」と同様です。
41. 貸方内訳管理コード2
「20. 借方内訳管理コード2」と同様です。
42. 貸方内訳管理コード3
「21. 借方内訳管理コード3」と同様です。
43. 貸方内訳管理コード4
「22. 借方内訳管理コード4」と同様です。
44. システム拡張用予備領域
予備領域です。NULL をセットしてください。
45. システム拡張用予備領域
予備領域です。NULL をセットしてください。
46. システム拡張用予備領域
予備領域です。NULL をセットしてください。
47. システム拡張用予備領域
予備領域です。NULL をセットしてください。
48. 小切手番号
TYPE : 文字
桁数 : 8 バイト以内 (半角文字)
説明 : 小切手番号をセットします。省略する場合は NULL をセットします。
49. 取引先コード
TYPE : 数値
有効値 : 0~999999
説明 : 「借方科目コード」「貸方科目コード」にセットした科目が取引先別管理をしているか否かにより、処理内容が異なります。

①いずれかの科目が取引先別管理をしている場合

この場合、当項目のセットは必須です。F X 4クラウドに未登録のコードをセットした場合、F X 4クラウドの取引先マスターに当該取引先コード、取引先名（次項）が自動登録されます。ただし、次項の「取引先名」がNULLまたはスペースの場合はエラーとなります。

（注意）取引先のコード変換表を利用している場合、「業務システムの取引先コードに対応するF X 4クラウドの取引先コード」としてコード変換表に定義された取引先コードがF X 4クラウドの取引先マスターに存在しないと、当該取引先コードは変換されません。この際、1)業務システム側の取引先コードがF X 4のコードの有効値であり、かつ 2)次項の「取引先名」がセットされている場合は、業務システム側の取引先コードが自動登録されます。

②いずれの科目ともに取引先別管理をしていない場合

この場合、当項目へのセットは必須ではありません。

- 1) F X 4クラウドに登録されている取引先コードをセットする。もしくは
- 2) 当項目に0をセットし、次項で任意の取引先名をセットします。

なお、F X 4クラウドに未登録のコードをセットした場合、当該コードはそのまま読み込まれますが、F X 4クラウドの取引先マスターへの自動登録はされません。

50. 取引先名

TYPE : 文字

桁数 : 32 バイト以内（全半角混在可）

説明 : 前項「取引先コード」に、F X 4クラウドに登録されている「取引先コード」がセットされている場合、どんな取引先名がセットされていてもF X 4クラウドに登録されている取引先名に置き換えます。

「取引先コード」に新規取引先コード又は0がセットされた場合は、当項目の値が読み込まれます。

51. 実際の仕入れ日入力パターン

TYPE : 数値

有効値 : 0~4

説明 : 消費税情報の「仕入れ入力区分」が「課税区分5~8まで入力」または「課税区分5~78まで入力」の場合で、貸借いずれかが該当する課税区分の場合、仕入れ年月日のパターンをセットします。仕入れ以外の取引の場合は0をセットします。

[実際の仕入れ年月日のパターン]

0=省略

1=令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日

2=令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日~令和 Z9 年 Z9 月 Z9 日

3=令和 Z9 年 Z9 月分

4=令和 Z9 年 Z9 月分~令和 Z9 年 Z9 月分

52. 実際の仕入れ開始年月日

TYPE : 数値

説明 : 実際の仕入れ年月日のパターンを1~4とした場合に、仕入れ開始年月日または仕入れ開始年月を西暦でセットします。年月の場合は日には0をセットします。

仕入れ日パターンが0の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

53. 実際の仕入れ終了年月日

TYPE : 数値

説明 : 仕入れ年月日のパターンを2, 4とした場合に、仕入れ終了年月日または仕入れ終了年月を西

暦でセットします。年月の場合は日には0をセットします。

仕入れ日パターンが0, 1, 3の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

例 : ①仕入れ日を表示しない、また仕入れ取引以外の場合

実際の仕入れ日パターン=0

実際の仕入れ開始年月日=0

実際の仕入れ終了年月日=0

②仕入れ日を「2年6月10日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=1

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=0

③仕入れ日を「2年6月10日～2年6月25日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=2

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=20200625

④仕入れ日を「2年6月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=3

実際の仕入れ開始年月日=20200600

実際の仕入れ終了年月日=0

⑤仕入れ日を「2年4月～2年6月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=4

実際の仕入れ開始年月日=20200400

実際の仕入れ終了年月日=20200600

54. 元帳摘要

TYPE : 文字

桁数 : 40 バイト以内 (全半角混在可)

説明 : 仕訳の元帳摘要をセットします。省略する場合はNULLをセットします。

なお、40 バイトを超える値をセットした場合、40 バイトを超える分については自動的にカットされた上で読み込まれます。

55. 受注番号

TYPE : 文字

桁数 : 8 バイト以内 (半角文字)

説明 : 受注番号をセットします。省略する場合はNULLをセットします。なお、値をセットした場合で、1 複合仕訳伝票内のすべての受注番号が同一でない場合は無視されます。

56. 資金大分類

TYPE : 数値

有効値 : 0～7

説明 : 「システム情報」メニューで資金管理する設定で、かつ1 複合仕訳伝票の貸借に資金科目及び資金外科目がある場合は資金収支区分をセットします。資金管理をしない場合、または貸借ともに資金科目もしくは資金外科目の場合は0をセットします。

①資金大分類が不要な取引でセットされている場合は無視されます。

②値を省略した場合は、まず単純仕訳に分解した場合に収支区分の必要な取引のうち、最も金額の大きい取引を抽出します。

1) 当該取引の資金外科目について、「資金相手科目の設定」メニューで収支区分を設定して

いる場合は、その資金大分類が自動的にセットされます。

2) 収支区分を設定していない場合はエラーとなります。

③値をセットする場合、1 複合仕訳内での資金大分類はすべて同一としてください。

異なる場合は、単純仕訳に分解した場合に収支区分の必要な取引のうち、最も金額の大きい取引にセットした収支区分で更新されます。

57. 資金小分類

TYPE : 数値

有効値 : 0~24

説明 : 「56. 資金大分類」と同様です。

58. システム拡張用予備領域

予備領域です。NULL をセットしてください。

59. 自動仕訳番号

TYPE : 数値

有効値 : 0~999999

説明 : 当該仕訳と原票とを対応させるための番号です。対応付けが不要な場合は0をセットします。

なお、セットする場合、1 複合仕訳内の自動仕訳番号はすべて同一としてください。「業務システムの登録」メニューで、自動仕訳番号が連続していない場合に警告を表示する設定として
いる場合、仕訳読込時に警告が表示されます。

60. 予定日自動計算区分

TYPE : 数値

有効値 : 0もしくは1

説明 : 買掛金・未払金の計上仕訳または売掛金・未収入金の計上仕訳の場合に、支払予定日または回収予定日を取引先の約定から自動計算して読み込む場合は1をセットします。0をセットした場合は、項目「61. 支払予定日」または「62. 回収予定日」にセットされた値を読み込みます。

なお、買掛金・未払金の計上仕訳以外または売掛金・未収入金の計上仕訳以外の場合、当項目は無視されます。

61. 支払予定日

TYPE : 数値

説明 : 支払管理機能を利用している場合、買掛金・未払金の支払予定日をセットします。省略する場合、買掛金・未払金の計上以外の仕訳の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

62. 回収予定日

TYPE : 数値

説明 : 入金管理機能を利用している場合、売掛金・未収入金の回収予定日をセットします。省略する場合、売掛金・未収入金の計上以外の仕訳の場合は0をセットします。

なお、当項目には、「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」の「年月日形式」に基づき値をセットします。

63. 借方軽減対象取引区分

TYPE : 数値

桁数 : 0もしくは1

説明 : 軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。なお、当区分が存在しない
(省略されている) 場合は、次の処理を行います。

①取引年月日が2019年10月1日より前の場合

「0」(軽減税率以外)として読み込みます。

②取引年月日が2019年10月1日以後の場合

1)消費税率が税率テーブルの軽減税率に該当する場合

「1」（軽減税率）として読み込みます。

2)消費税率が税率テーブルの軽減税率に該当しない場合

「0」（軽減税率以外）として読み込みます。

64. 貸方軽減対象取引区分

「63. 借方軽減対象取引区分」と同様です。